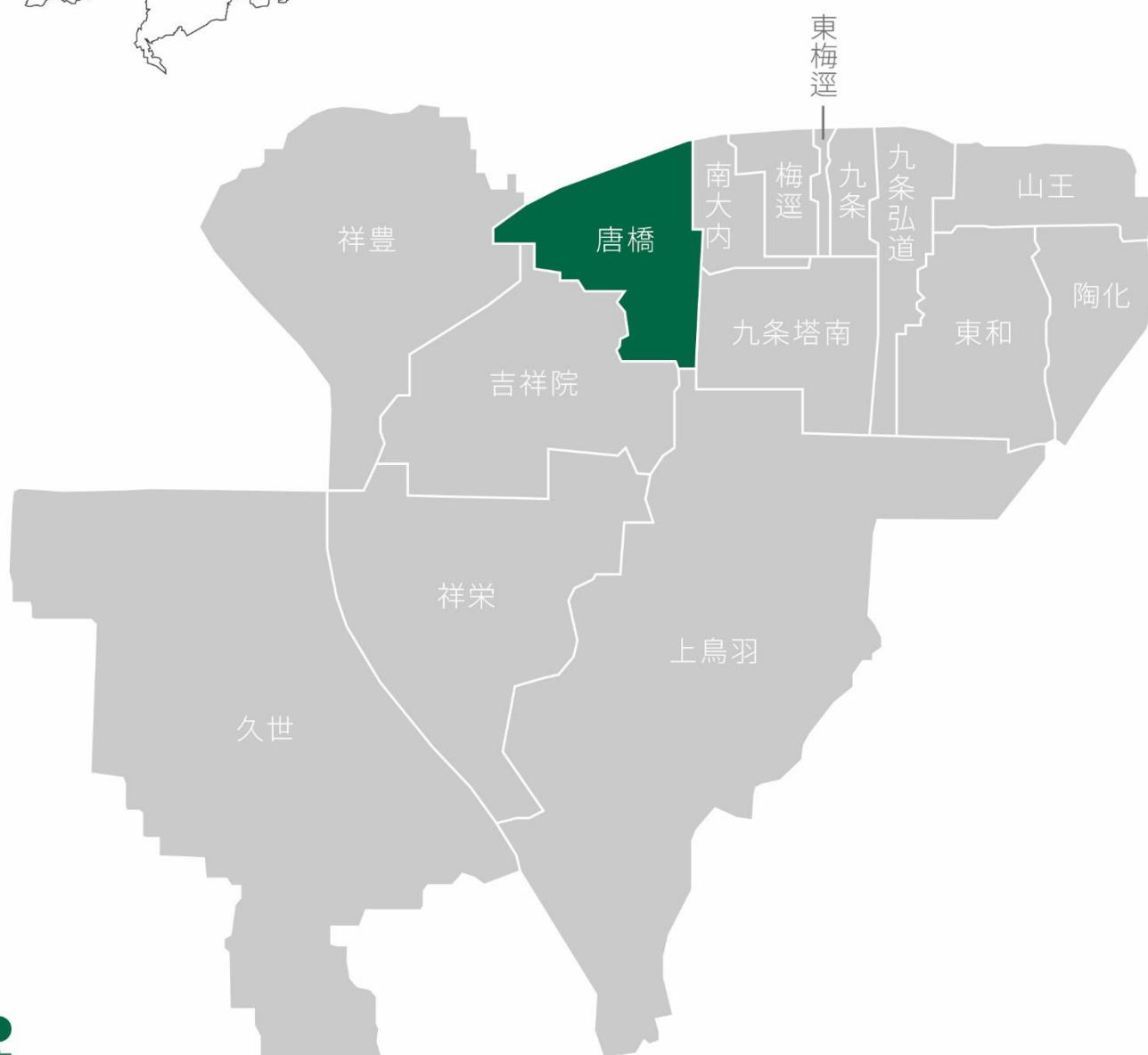


南区

minami-ku



■ 取組の経緯・進め方

洛陽工業高校が平成 28 年度末に閉校となり、3 年～5 年後には洛陽工業高校跡地に新たな普通科系高校が開校される予定である。同時期に、「八条団地再生事業」および「西大路駅のバリアフリー化」という 2 つの事業も行われ、学区にとって大きな転換期となると思われる。

このような状況の中、学区では「安心・安全・住みよい町 唐橋」をスローガンに、「防災・防犯対策」「子育て支援」「高齢者サポート」といった事業を行い、子どもから高齢者までが住みやすく、地域全体が活性化できるまちづくりに取り組んでいる。防犯や事故防止に対しての取組強化、松尾祭といった大規模な神輿祭り等、様々な団体が自由に意見を交わし合い、協働しながら、多様な行事・取組を行っているのも当学区の特徴である。

■ 具体的な取組

学区では現在、戸建てで約 150 世帯、集合住宅では約 100 世帯、計 250 世帯の空き家を把握している。これらの空き家における課題・問題について、学区ではまちづくりにおける「防犯対策」の一環と位置づけ、活動を行っている。

取組①：空き家の調査・見守り

学区内の空き家については、各町内会長や地域住民等の協力により、すべて所在地・所有者は特定されている。把握された空き家に対しては、自治連合会で情報を集約し、地域の各種団体や消防分団と共有。定期的を実施しているパトロールの重点チェックポイントとし、建物の状況や売却等の動向を注視している。

また、規模の大きな不動産が売買される際には、今後の利用目的等の確認をできるだけ早期に行っている。

取組②：空き家周辺の環境保全

老朽化した空き家周辺に、不法投棄が多発するケースが見られた。地域によるゴミの片づけや清掃を実施したところ、不法投棄が解消され、近隣住民の意識も変化して周辺環境が改善されている。

取組③：民泊施設の対応

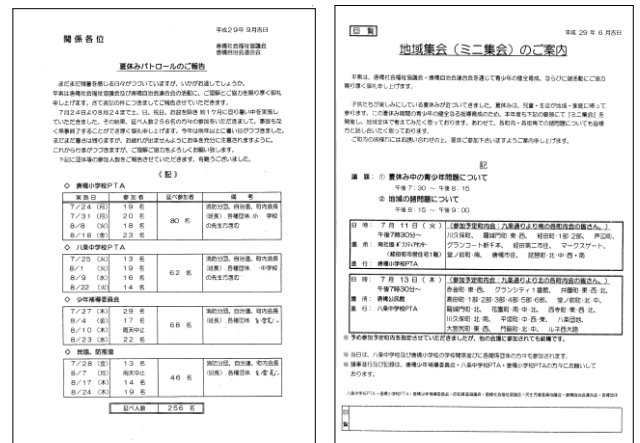
学区内には、空き家を転用した民泊施設が増加している。宿泊者の喫煙によって火災報知器が作動したことで、民泊施設の存在に気づき、町内会や学区からの要請によって運営方法が改善された事例もある。民泊施設については、計画段階で地域への説明会を開いていただき、地域の要望を踏まえた合意文書を双方で交わす手順が望ましいと考える。学区としては、まず事業者に対して近隣住民に意思表示をしていただき、解決が困難であれば自治連合会が対応する方向で対処していきたいと考えている。

取組④：地域の課題・問題の共有

学区では年 2 回、青少年の健全な指導育成や、各町内・各街角の諸問題について、地域住民が自由に参加し、意見や話し合いのできる「地域集会（ミニ集会）」を開催している。空き家・民泊の問題についても、その場で住民が情報共有し、まちづくりの一環として取り組んでいく。

■ 今後の取組

- 新しい高校の開校、八条団地再生に伴い、今後は学区外からの新たな住民、若い世代が増加していくと考えられる。地域を理解し、溶け込んでいただけるよう、現状のまちづくりのスタンスを踏襲しながら、より充実したコミュニケーションの機会や場が必要と考えている。
- 学区では、まちづくりの取組を通して、高齢者はもちろん、子どもたちやファミリー世帯も「安心して住み続けられるまち」を目指すことが、空き家の発生抑止につながると考え、今後も取組を推進していきたい。
- 「JR 西大路駅のバリアフリー化」「洛陽工業高等学校跡地における新普通科系高校の創設」「八条団地再生」という事業に対しては、住民同士が自治会活動を通じて強い繋がりを持ち、地域全体の活性化を図れるまちづくりに寄与する事業となることを期待している。
- 西寺跡について、地主、京都市、地域が話し合いつつ発掘調査等を行う。



- 「夏休みパトロール」の告知
- 「ミニ集会」の告知



- パトロールには消防分団をはじめ、自治連合会、PTA 等の各種団体が参加

- 各世帯にステッカーを配布し、玄関等に掲示することで、地域住民の防犯意識の向上や、犯罪の抑止力につながっている

